

母のお弁当

イルマ・クレカ・ゼオリタ

小学生の頃私が怖かった事は母に作ってもらったお弁当を残して母に叱られる事でした。

小学校の時は13時に学校が終わるのに母の仕事が終わるのは17時だったので、私は学校で母を待っていました。そういうわけで母は私にお弁当を作ってくれました。

実は私はお弁当がおまじり好きではありませんでした。母のお弁当にはたくさん野菜が入っているからです。友達に食堂で料理を買いました。本当に美味しそうでした。私もそんな料理が食べたかったです。

両親からお小遣いをもらえないのは私だけのようにでした。だから食堂で料理を買えませんでした。母が遅く起きてお弁当を作れなくて、代わりに小遣いをくれる日は一年間に一回ぐらいしかありませんでした。

6年生の時、いつものように母が作ったお弁当を開けました。ほうれん草と揚げ豆腐と

ご飯が入っています。左側の友達はラーメン
を持ってきて、右側の友達は食堂の料理を買
っていました。もちろん、野菜は入っています
せん。先生が「いただきます」と言っ
て来た時、私のお弁当を見て驚きました。「
お母さんに作ってもらうの？」と聞きました。
私は頷きながら「はい、毎日です」と答えま
した。先生はもと驚いて、教室の前で「イ
ルマさんのお母さんは働いているのにイルマ
さんに毎日お弁当を作っ
てあげます。それは
ほうれん草ですよ。お弁当を準備するた
めにお母さんは早く起きたに違
いありません。
本当にすごいね」と言いました。お弁当を見
て私は思いました。母はすごいのか？
6年生は母がお弁当を作る最後の年でした。
小学校を卒業した後、私はジョグジャカルタ
へ引っ越して進学する事になり、母はバリへ
引っ越す事になりました。私達の距離は遠
くなりました。それ以来母のお弁当を食
べられなくなりました。

今	私	は	日	本	に	い	ま	す	。	母	に	ほ	う	れ	ん	草	と	揚	
げ	豆	腐	の	お	弁	当	を	作	っ	て	も	ら	え	ま	せ	ん	。	そ	れ
は	私	の	一	番	好	き	な	お	弁	当	に	な	り	ま	し	た	。	体	に
い	い	だ	け	で	な	く	温	か	い	、	母	の	愛	と	同	じ	で	す	。
今	日	は	12	月	22	日	で	す	。	イ	ン	ド	ネ	シ	ア	で	は	母	
の	日	な	の	で	、	こ	の	作	文	を	恋	し	い	母	と	母	の	お	弁
当	に	捧	げ	ま	す	。													